

令和 8 年 9 月 17 日

令和 7 年度 特別の教育課程の実施状況等について

茨城県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
つくばみらい市立小張小学校（外 8 校）	つくばみらい市教育委員会	公立

1. 学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

学 校 名	特別の教育課程の編成の方針等の 公表 URL
つくばみらい市立小張小学校	https://www.city.tsukubamirai.lg.jp/future/data/doc/1713402126_doc_3_0.pdf
つくばみらい市立豊小学校	https://www.city.tsukubamirai.lg.jp/future/data/doc/1772410612_doc_4_0.pdf
つくばみらい市立伊奈小学校	https://www.city.tsukubamirai.lg.jp/future/data/doc/1790810716_doc_5_0.pdf
つくばみらい市立伊奈東小学校	https://www.city.tsukubamirai.lg.jp/future/data/doc/1790810923_doc_6_0.pdf
つくばみらい市立谷和原小学校	https://www.city.tsukubamirai.lg.jp/future/data/doc/1779150358_doc_38_0.pdf
つくばみらい市立福岡小学校	https://www.city.tsukubamirai.lg.jp/future/data/doc/1790571282_doc_8_0.pdf
つくばみらい市立小絹小学校	https://www.city.tsukubamirai.lg.jp/future/data/doc/1779163738_doc_9_0.pdf
つくばみらい市立陽光台小学校	https://www.city.tsukubamirai.lg.jp/future/data/doc/1747648462_doc_10_0.pdf
つくばみらい市立富士見ヶ丘小学校	https://www.city.tsukubamirai.lg.jp/future/data/doc/1790826749_doc_11_0.pdf

※必要に応じて行を追加すること。

2. 学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学 校 名	自己評価結果の公表 URL	学校関係者評価結果の公表 URL
つくばみらい市立小張小学校	https://www.city.tsukubamirai.lg.jp/future/data/doc/1790633524_doc_3_0.pdf	https://www.city.tsukubamirai.lg.jp/future/data/doc/1790633524_doc_3_0.pdf
つくばみらい市立豊小学校	https://www.city.tsukubamirai.lg.jp/future/data/doc/1790653987_doc_4_0.pdf	https://www.city.tsukubamirai.lg.jp/future/data/doc/1790653987_doc_4_0.pdf
つくばみらい市立伊奈小学校	https://www.city.tsukubamirai.lg.jp/future/data/doc/1790810720_doc_5_0.pdf	https://www.city.tsukubamirai.lg.jp/future/data/doc/1790810720_doc_5_0.pdf
つくばみらい市立伊奈東小学校	https://www.city.tsukubamirai.lg.jp/future/data/doc/1790675488_doc_6_0.pdf	https://www.city.tsukubamirai.lg.jp/future/data/doc/1790675488_doc_6_0.pdf
つくばみらい市立谷和原小学校	https://www.city.tsukubamirai.lg.jp/future/data/doc/1790651843_doc_38_0.pdf	https://www.city.tsukubamirai.lg.jp/future/data/doc/1790651843_doc_38_0.pdf
つくばみらい市立福岡小学校	https://www.city.tsukubamirai.lg.jp/future/data/doc/1790575473_doc_8_0.pdf	https://www.city.tsukubamirai.lg.jp/future/data/doc/1790575473_doc_8_0.pdf

つくばみらい市立小絹小学校	https://www.city.tsukubamirai.lg.jp/future/data/doc/1779163964_doc_9_0.pdf	https://www.city.tsukubamirai.lg.jp/future/data/doc/1779163964_doc_9_0.pdf
つくばみらい市立陽光台小学校	https://www.city.tsukubamirai.lg.jp/future/data/doc/1790642530_doc_10_0.pdf	https://www.city.tsukubamirai.lg.jp/future/data/doc/1790642530_doc_10_0.pdf
つくばみらい市立富士見ヶ丘小学校	https://www.city.tsukubamirai.lg.jp/future/data/doc/1790846177_doc_11_0.pdf	https://www.city.tsukubamirai.lg.jp/future/data/doc/1790846177_doc_11_0.pdf

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- ☒ 計画通り実施できている
- ・ 一部、計画通り実施できていない
- ・ ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

英語のネイティブスピーカー（ALT）が、小学校第1学年、第2学年の英語活動の授業に参画し、つくばみらい市として実施体制の充実を図り、特別の教育課程を円滑に実施することができている。

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- ☒ 実施している
- ・ 実施していない

<特記事項>

- ・ 各実施校の学校ホームページにおいて情報提供を行っている。

4. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

本特例は、小学校1年生と2年生において週1時間の「英語活動」を設置しALTとの交流の機会を設け、体験的な活動を通して外国語や異文化を理解し、自他の文化や価値を尊重することができるグローバルな視野や態度の素地を育む学習を行うものである。本市では幼小中において、連続性のある教育を推進し、市内全ての幼稚園、保育所、認定こども園において、外国人講師との英語での交流機会を設けたり、英語を用いた遊びなどを積極的に取り入れたりしており、就学前の学びを小学校入学後においても継続できる機会を設けるものである。

1、2年生の89.3%（学校平均）の児童が、ALTとの活動について「とても楽しい」又は「楽しい」と回答しており、英語でのコミュニケーション活動が、英語やその背景

にある文化に対する興味・関心をもつきっかけとなり、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度が養われている。就学前の学びとの連続性が確保されていると考えられる。

一方で、英語での楽しいゲームやアクティビティが中心の活動であるため、3年生外国語活動との関連・系統性をふまえた指導が必要である。また、英語の勉強が「とても好き」または「好き」と回答した児童が1年生においては83.7%（学校平均）、2年生は80.6%（学校平均）と英語活動への関心が低くなる傾向が見られた。発達段階に応じて、児童の意欲を高める話題、コミュニケーション活動の場面設定、アクティビティ内容の工夫が必要である。

（2）学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

本特例を実施している市内小学校において、英語の勉強が「とても好き」又は「好き」と回答している児童が82.1%（学校平均）、英語を話せるように「とてもなりたい」又は「なりたい」と回答している児童が93.0%（学校平均）、外国のことをもっと知りたいと回答している児童が88.1%（学校平均）おり、小学校外国語活動の目標である「外国語による聞くこと、話すことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力」の育成につながる活動として十分な成果を上げていると言える。

また、令和7年12月に実施したつくばみらい市学習に関するアンケートでは「英語の学習が大切だと思う」と答えた生徒が中学校3年生で93%、「将来役に立つと思う」が94%であった。幼小中を通しての切れ目ない英語学習の環境によって、英語を学ぶ意欲の維持・向上に対して成果を上げていると考える。

5. 課題の改善のための取組の方向性

4に示すような課題も踏まえ、小学校1、2年生でのカリキュラムの見直しと授業展開の工夫に取り組んでいく。発達段階に応じ、取り扱う話題やコミュニケーション活動の場面設定、ゲームやチャンツなどを見直し、児童が達成感を味わえる活動にすることが必要だと考える。また、自らの学習や成長を振り返ることができるように振り返りの時間を確保するとともに、その方法についても工夫を重ねていきたい。